

## 第5章 今後の展開



## 第5章 今後の展開

### 第1節 普及拡大

基盤整備センターメールマガジンの登録と、ヒアリング実施可能を条件とし教材を配布する。配布ルートは複数用意し、配布状況は機構が有する事業所情報システムを利用・共有化する。関連団体への広報協力を得ながら周知と利用拡大に努める。

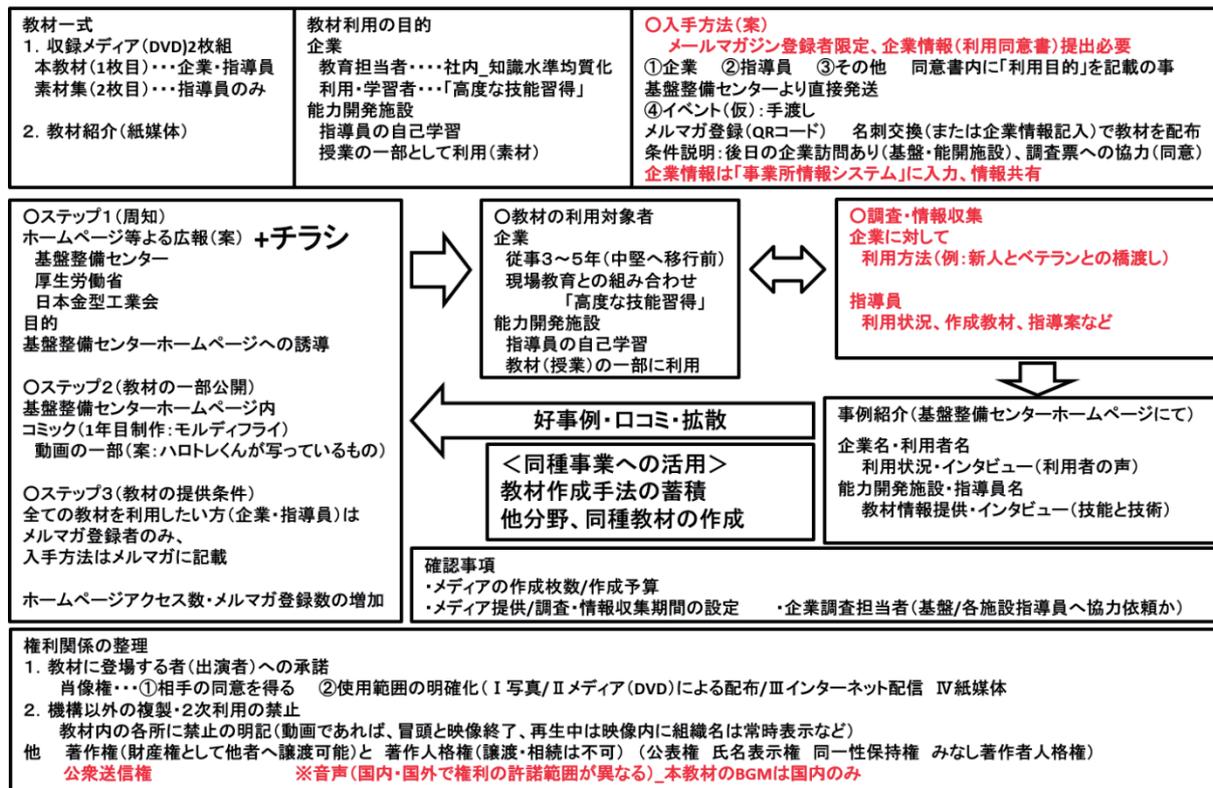


図 5-1 : 教材配布・活用イメージ

## 第2節 教材への活用

### 2-1 職業訓練指導員からのメッセージ

教材制作に携わった指導員に、改めて今後の教材活用について議論いただき、以下のよう  
なメッセージを作成いただいた。

#### <メッセージ>

本教材は、在職者の初任層が中堅へレベルアップする際にeラーニング教材を使った  
人材育成をイメージして作成されてきた。

試行結果からも、企業から高い評価と期待の声が集まっている。

今回、この教材を在職者訓練や指導員の人材育成に活用するためには、ということで  
議論を行った。

初任層指導員においては、離職者訓練を担当できるようになることが最優先になっ  
ている。その中で、在職者訓練や射出成形分野に取り組む際のきっかけや、自身のキャリ  
アアップを考えながら高度な技能習得の機会確保が重要である。

離職者訓練は「システム・ユニット訓練」として、共通テキストが用意されているが、  
在職者訓練では、企業ニーズに応じて指導員が教材の一部を自作する必要がある。

しかしながら、指導員の人材不足も影響もあり、これまでのように教材を自作する環  
境が少なくなってきている。さらに、射出成形分野は機器を所有する施設が少なく、指  
導員が身近に触れる機会がないため、気軽にその分野に興味をもてる環境がない。

今回、本教材の活用については、射出成形関連の在職者訓練コースの中から「プラス  
チック射出成形技術の要点」を指導員が最初に授業を行うものとして推薦する。

本教材のコンテンツを在職者訓練へリンクさせることが可能であれば、指導員が射出  
成形金型分野へのチャレンジを後押しする効果が期待できる。

また、特定の機器が整備されていない状況でも、本教材の動画コンテンツを利用し、  
職業訓練サービスを提供することで各地域への普及に貢献することも期待できる。

さらに、今回のコンテンツは、金型業界における金型の設計・製作・射出成形の分野  
を網羅した形になっており、在職者訓練のCAD関連、NC加工関連、熱処理関連のコ  
ースでも活用することができ、プラスチック射出成形分野にとどまらず、広く使われ  
ることが大切である。そのための仕掛けとして、それらのカリキュラムモデルの使用教材  
に本教材を入れることで、多くの指導員に知ってもらうことが可能となる。

実務経験を積むことが難しい指導員が、このようなデジタルコンテンツを入口として  
業界における仕事の在り方を追体験した上で、指導に当たれるということは、指導員の  
成長や機器等の物理的課題を補完する効果が期待できるため、他業種や他分野でも有効  
なものとなるかもしれない。

## 2-2 教材制作専門家からの活用提言

このような取り組みを、長年の経験を持つ教材制作会社の専門家の視点にて解説いただいた。

### <活用提言>

#### 1. 動画コンテンツの特徴

- ①「動画集/匠の技」・・・本物の技の魅力をストレート、直感的に伝えることができる。
- ②「知識習得（コミック風）」・・・ノウハウやキャリアデザインを、リアルに、またお洒落に伝えることができる。

#### 2. ターゲット

『本物志向、現実充足志向（リア充）が強まっている若者、理系女子』

（背景）

- ・若者や高校生は、自分の関心のあるものについて、今までの常識にとらわれず、自分が本物だと思うところに、キャリアコースを見出す傾向が強まっている。
- ・理系女子ならではの斬新な発想で「町工場」を次世代化・グローバル化したサクセスストーリーも多数存在している。
- ・理系女子のサクセスストーリーが存在するため中小企業製造業への志向が高まるなどの好循環が見込まれる。

#### 3. 活用案

- ・未来の技能習得教材として総合高校などに提供（ネット経由）
- ・職業能力開発総合大学校への入学者増加のためのツールとして活用（特に理系女子に対して）
- ・製造業への人材確保のためのツールとして活用（特に理系女子に対して）
- ・製造業界への各種イベントへの提供
- ・製造業のブランディングのために高校などに提供（ネット経由）

※なお、ニーズを事前に把握するためのマーケティング調査を行い、ポータルサイトの構築など戦略的に展開すると、効果をさらに高めることができる。

### 2-3 まとめ

「匠」と呼ばれる高度熟練技能者が持つ知識・技能を「少子高齢化時代」という状況化でいかに効果的に伝承するかは、ものづくり分野にかかわらず日本が直面している大きな課題である。

そのためには、e ラーニング教材の活用を含め、今までと異なる学習スタイルの構築が必要である。

しかしながら、最終的に必要なのは、人を通じた現場での実践であり、各種教材を利用して中堅・熟練者の負担を軽減させる取り組みは、これからも継続して検証していく必要がある。

本格的な e ラーニング化の実現には、動画配信設備の強化や、製造現場の IT 化が必須である。

制作会議では、「近年、金型製作の現場においても人手不足が深刻化であり、外国人労働者が従事する企業も多く存在している。今後も増加傾向にあるため、本教材を多言語化するとさらに有効に活用できるのではないか。」などの意見も出された。その場合、多言語化するための費用や国際的な利用規約など、本教材に取り込まれるコンテンツの権利処理が発生するなど、課題が大きい。

## 参考文献

職業能力開発総合大学校基盤整備センター，“生産用機械器具製造業（プラスチック射出成形用金型製造業）に係る総合的かつ体系的な職務分析の推進に関する調査研究”，2012，調査研究資料 No. 130-3.

社団法人日本金型工業会 “金型技術教育マニュアル-プラスチック用金型編-” 「実践型人材養成システム普及のための地域モデル事業」厚生労働省委託事業，2008.

財団法人 国際研修協力機構 “職業別研修テキスト-プラスチック成形（射出成形作業）” - 2010.

